## 北場改善の進め方

目を向けよう まずは足元に

物流現場では、生産性と

深刻化している近年は、特 最大の課題だ。人手不足が 品質を改善することは常に

に生産性を向上させなけれ

義が異なったり、曖昧に使 物流拠点、社員同士でも定 とだ。同じ企業の事務所や 使っているかを共有すると う言葉をどのような認識で

物流業務の分類

付加価値は生み出さ

がある。

早急に対応策を考える必要

に無駄な業務に対しては、

われるなど認識が違うこと

例えば、生産性は「1人

## の向上を目的に、AI(人 この数年、生産性と品質 課題

## ロジスティクスグループ は先進技術の導入を考慮し な事業計画を作成するとき な投資を伴う。中小企業が る段階で、導入には大規模 けた実証実験が行われてい 物流企業が増えている。だ 先進技術の導入を希望する 工知能)やロボットなどの は非常に少ない。中長期的 いますぐに導入できるもの の活用は研究や実用化に向 が、現時点では物流業務で ながら、まずはすぐに始め 性 は最 產

るのにかかった時間」が考 た物量」「1ピースを処理す の作業者が1時間で処理し

物流業務

付加価値を生み 出す業務

に関連しているのかを分析

が生産性や品質とどのよう 場の中で、分類した各業務

って成り立っている物流現

複雑な業務が組み合わさ

の双方を改善させる上で肝 することが、生産性と品質

するサービスのレベルを含 れる。最近では「作業の正 といったものがよく想定さ なく保管・配送すること」 ある。品質は「商品を損傷 えられる。処理単位はケー めて考えられていることも 告できること」など、提供 報を適切なタイミングで報 こと」「顧客が必要とする情 確性」「リードタイムが短い スやパレットになることも が鍵になる。共通の物差し 定義や使い方を統一した上 発見しやすくなる。 があるとコミュニケーショ で、業務を数値化すること ンが円滑になり、課題点を

進め方について考えてい

クニエ

翔史

マネージャー

指すさまざまな現場改善の 産性や品質の向上などを目 高まっている。本連載で

中小企業を念頭に、生

になり複雑化し改善要求も

サービスは、ますます高度

ては、消費者が求める物流 管理者は多い。品質につい 善に頭を悩ませている現場 を処理できず、生産性の改 ば、これまでと同じ作業量

共有するためには、言葉の 言葉の認識を会社全体で ドオフの関係にあると考え 生産性と品質は、トレー に施策を検討 付加価値を基

生産性改善時に着目 早期に対応

み出していないが必要な業

るためには、付加価値を年

一方、生産性を向上させ

目して打ち手を考える。

務・無駄な業務に着目し

て、施策を打つべきだ。特

ときに注意すべきことは、

社内で改善策を検討する

「生産性」や「品質」とい

を向けることが重要だ。 られる足元の現場改善に目

ないが必要な業務 付加価値を生み ※特に無駄な業務へは 出さない業務 無駄な業務 業務と、無駄な業務に分け やすくなる。 む際は、業務を数値化 ずしもそうではない。 られている。だが、必 してはいないが必要な は、付加価値を生み出 いない業務について するとよい。さらに、 細分化して分析すると イントになる。業務を して分析することがポ の通り、改善に取り組 は多く存在する。 先述 同時に改善させた事例 付加価値を生み出して れ以外の業務とで分類 み出している業務とそ 課題の在りかを特定し めには、付加価値を生 両立して改善するた

ることができる。品質を向 上するためには、付加価値 を生み出している業務に着 に取り組んでいる。 当者まで全社的に改善活動 を行い、経営層から現場相

庫の立ち上げ運営管理を経験。後に日系コンサルテ 経営学修士、外資系3PLプロバイダーで複数の倉 職。物流領域での業務改革やシステムコンサルティ ィングファーム勤務を経て、17年クニエ入社、 ノグを手掛ける。 おおむろ・しょうじ=2010年米ナショナル大

輸送経済新聞社『輸送経済新聞

2020年7月28日』

る前に、徹底的な数値管理

業ほど、AIやロボットと

物流に力を入れている企

いった最先端技術を導入す